

## バイデン大統領の支持率低迷とFRB②



シニア・ストラテジスト 石黒英之

### ポイント① 米金融政策正常化が加速も

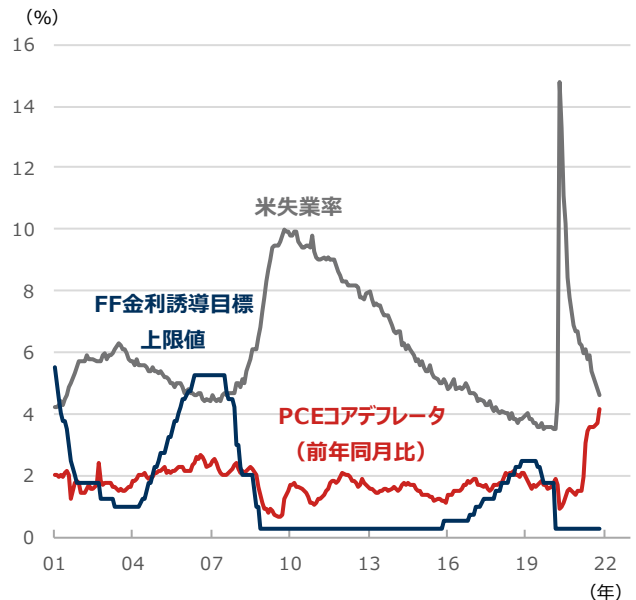
バイデン大統領がインフレ長期化に伴う支持率低迷に苦しむ中、FRB（米連邦準備制度理事会）もインフレ抑制に向けた金融政策正常化の道筋に頭を悩ませています。11月24日に公表された11月のFOMC（米連邦公開市場委員会）議事要旨では、テーパリング（量的金融緩和の段階的縮小）と利上げ開始時期に関して柔軟性を持たせる必要性を強調したことが明らかとなりました。足元でクラリダ副議長やウォラー理事など複数のFRB高官が、12月14～15日のFOMCでテーパリングのペース加速が議題になる可能性を示唆するなど、FRB内でタカ派的な発言が目立ってきました。

同日発表された10月のPCEコアデフレータ（FRBが金融政策を行なう上で重視する物価指標）は前年同月比で4.1%上昇、月初に発表された10月の失業率も4.6%まで低下しており、FRBがテーパリングペースの加速、利上げの前倒しといった動きに出る可能性は高まっているといえます（右上図）。

### ポイント② 実質金利の動向を注視

もっとも市場はインフレ抑制に向けたFRBのタカ派姿勢シフトを冷静に受け止めています。2013年にはテーパリングを前に実質金利が大幅に上昇しましたが、今回はFRBが市場とのコミュニケーションを円滑に行なっていることもあり、実質金利はマイナス1%程度で推移し、株式市場も大きな混乱は起きていません。来年に米中間選挙を控え、米国民の関心がインフレに向かう中で、FRBとしても行き過ぎたインフレを抑制する政策スタンスに舵を切っていくとみられます。12月のFOMCに向けて雇用統計（3日）、CPI（消費者物価指数、10日）の結果がFRBの金融政策の行方を占う上で試金石となりそうです。

### PCEコアデフレータ・米失業率・FF金利誘導目標上限値



期間：2001年1月～2021年10月、月次  
 ・FF金利：フェデラルファンドレート  
 ・PCEコアデフレータ：個人消費支出デフレータ（エネルギー、食品を除く）  
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

### S&P500種株価指数と米実質金利



期間：2013年1月4日～2021年11月24日、週次  
 ・米実質金利：Bloombergジェネリック米10年物価連動国債利回り  
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。